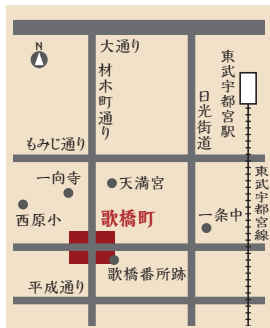




▲現在も残る鉤型路



▲江戸時代宇都宮城下復元図(市教育委員会作成)より



「歌橋町」という町名は、その昔、この辺りに住んでいた人が歌を詠み、その歌が万葉集に載ったという言い伝えがあったことがその起りといわれています。詠んだ歌が万葉集に載ることがとても名誉なことだったことがうかがえるエピソードですね。

古くは、宇田橋町とも書かれていました。歌橋町は奥州街道に面しており、江戸時代には、7の付く日に市がたち、とてもにぎわったと伝えられています。大きなまちではあ



古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します



一条3丁目
井上 芳明さん

りませんでした。かつてはたくさんの方が住んでいて、道沿いには銭湯や精肉店などたくさんのお店が並んでいました。

また、宇都宮城の西に位置していたことから、城下町としての名残があります。一つは、交差する2本の道路の一方を意図的にずらす鉤型路です。車での通行は少し不便かもしれませんが、これも城下町ならではのものとして通行してください。もう一つは、宇都宮城内と街道を出入りする人を見張る番所の跡です。町名にちなみ、歌橋番所と呼ばれていました。番所から宇都宮城内までの抜け道もあったようです。

城下町の風情を残すまち、歌橋町をゆっくり歩いてみませんか。